

研究分野	病理	部名	研究開発部
研究課題名	魚病診断事業		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	S.56～		
担当	榊 昌文・松田 忍		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

青森県内における淡水魚の魚病を診断し、魚病被害の抑制および防疫対策に役立てることを目的とする。

〈試験研究方法〉

1. 魚病診断

養殖業者等から検査依頼があった病魚、および河川等でのへい死事故により持込のあった検体について、ウイルス、細菌、真菌及び寄生虫の検査を行った。

ウイルス性疾病の診断は株化細胞による培養法で行い、細胞変性が見られた場合には、中和試験または細胞変性の特徴によりウイルスを同定した。

細菌性疾病の診断は、寒天培地での培養法により行い、菌の分離が見られた場合には、凝集反応試験、性状試験などにより同定した。また、必要に応じて PCR 検査を行った。

2. 薬剤感受性試験

分離された細菌について、ディスク法による薬剤感受性試験を行った。

3. アユ放流種苗の冷水病保菌検査

県内種苗生産施設で生産されたアユ種苗について、放流前に検体を採取し、PCR 法による冷水病保菌検査を行った。

〈結果の概要・要約〉

1. 魚病発生時における診断

表 1 に魚種別疾病別診断件数を、表 2 に月別診断件数を示した。

今年の診断件数は 14 件であり、魚種別では、ニジマスが 4 件と最も多く、次いでイワナ、サクラマス、ナマズが各 2 件であった。月別では夏期の発生が多い傾向にあった。

ウイルス性疾病の発生は確認されなかった。

細菌性疾病では単独疾病（冷水病）が 1 件、混合感染（せっそう病＋トリコジナ症）が 1 件発生した。

2. 薬剤感受性試験

表 3 に薬剤感受性試験結果を示した。イワナのせっそう病病原菌は塩酸オキシテトラサイクリンとフロルフェニコールに高い感受性が見られた。サクラマスの冷水病病原菌に対してはスルファゾールでやや低い感受性であったが、その他の薬剤では高い感受性が見られた。ナマズの運動性エロモナス症病原菌については全般的に感受性は低かった。

3. アユ冷水病の保菌検査

県内種苗施設で生産されたアユ人工種苗について、2007 年 5 月 22 日～23 にかけて検体 50 尾の検査を行ったが、冷水病菌は検出されなかった。

<主要成果の具多的なデータ>

表1 魚種別疾病別診断件数

(平成19年1月～平成19年12月)

疾病名	魚 種								計
	ニジマス	イワナ	サケ	サクラマス	アユ	イトウ	ナマズ	フナ類	
運動性エロモナス症					1		1		2
鰓病 非細菌性						1			1
せっそう病+トリコジナ症		1							1
冷水病				1					1
白点病	1							1	2
トリコジナ症							1		1
腸管鞭毛症	1								1
水腫症				1 (1)					1
その他(飼育環境等)	1 (1)								1
不明	1	1 (1)	1						3
計	4	2	1	2	1	1	2	1	14

※ ()内は1～3月の診断件数(18年度に掲載)

表2 魚種別月別診断件数

(平成19年1月～平成19年12月)

魚 種	診 断 月												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ニジマス			1						2			1	4
イワナ			1				1						2
サケ					1								1
サクラマス		1					1						2
アユ								1					1
イトウ											1		1
ナマズ								1		1			2
フナ類					1								1
計	0	1	2	0	2	0	2	2	2	1	1	1	14

表3 薬剤感受性試験結果

(平成19年1月～平成19年12月)

病名	塩酸オキシテトラサイクリン	オキシリン酸			フロルフェニコール	スルフィゾール
		A1	A2	A3		
せっそう病	+++	++	++	-	+++	
冷水病	+++	+++	+++	+++	+++	++
運動性エロモナス症	-	+++	++	+	+	++